

WHO 本部ヘルスプロモーションプログラム

大阪大学医学系研究科 社会医学講座公衆衛生学教室

小林 由佳



2008 自治医科大学看護学部卒
2008-2015 化学メーカー勤務
2017 大阪大学医学系研究科社会医学講座
公衆衛生学 修士課程

はじめに

私は、2018年3月26日～6月29日までの約3か月間、スイスのジュネーブにある世界保健機関（World Health Organization; WHO）本部にてインターンとして様々な経験をした。

インターンシップでは、非感染性疾患予防（Prevention of Noncommunicable diseases; PND）部門 Health Promotion Unit に所属した。私が従事した主な業務は、発展途上国の職場の Health Promotion の政策づくりの協力と Commercial determinants health のインフォメーションノートの草案の作成である。また、業務とは別に学ぶ機会も多く、定期的に行われている様々な演目のランチタイムセミナーや、インターンの期間中に開催されていた World health assembly に参加する機会を得た。更に、インターン同士の活動の1つであるインターンボードにて、インターンの情報を発信する為の Instagram の作成に協力した。



世界保健機関（WHO）本部

WHO 総会の様子。

背景

私が所属する大阪大学の公衆衛生学教室は留学生が多数在籍しており、海外の大学との交流が盛んである。そのような背景と併せて、私は学部生時代にインドネシアにてフィールドワークを経験したことがきっかけとなり、大学院入学後に国際保健の授業を受け、国際機関の活動内容や現状を知りたいという気持ちが強くなり WHO のインターンを経験したいと強く思うようになった。また、大阪大学の公衆衛生学教室に在籍する前は、会社勤務をしており保健師として産業保健活動に携わっていた。このような経歴から、インターンでは PND 部門 Health Promotion Unit に所属し、前職の職域の Health Promotion の展開という業務に関連したインターンプログラムを経験することになった。

WHO Health Promotion プログラム

Health Promotion Unit は PND 部門に位置し、口腔保健のメンバーと一緒に活動している。その為、Oral health、学校保健など多様な業務について知ることが出来た。

Health Promotion の展開は、マクロからミクロまで対応することが求められる為、業務範囲も幅広い。例えば、国際保健の情勢や国の政策に関わるような健康問題の定義の議論と作成から、職域など限定的な状況に対するサポートまで求められる。また、Health promotion の業務の性質上、国の文化的背景を考慮することが求められるため、文化背景を理解することと、バランスのよい対応をす

ることが必要となる。更に、業務は Health Promotion Unit を超えて、他機関や他部門と協力することも多い。



ランチタイムセミナーの様子



パレ・デ・ナシオン（国連欧州本部）

インターンシップ内容と成果

今回のインターンシップでは、以下の2つの業務を主に行った。

1) 発展途上国の職場の Health Promotion の政策づくりの協力

その国と地域の WHO スタッフ、政府関係者と一緒に、職場の Health Promotion を展開するための政策づくりのサポートをした。電話会議への参加、政府関係者が理解しやすいように具体例を集めた資料の作成をした。また、他の国の職場の Health Promotion を調べ、比較検討した。特に、同じ財政レベルの国同士と同じ地域の国同士の比較を行っ

た。この業務を通して、相手側の求めることと、こちら側の提案をすり合わせるにはどのような手段が有効か考え、コミュニケーションを通して理解しあうプロセスを学んだ。

2) Commercial determinants health のインフォメーションノートの草案作成

Margaret Chan 氏が WHO の前事務局長の任にっていた時に、Commercial determinants health について言及した。その流れを受けて、Commercial determinants health について考察し、将来予測され得る健康問題について考えることになった。その第一歩目として、Commercial determinants health のインフォメーションノートの草案の作成業務を行った。作成にあたって、論文、各国の健康情報、各国政府の政策から情報収集を行い、草案作成のサポートを行った。このことから、商業的な流れの把握と消費者のニーズから、今後、予測する健康問題を考えることの大切さを学んだ。また、世界規模で健康問題を考えることの難しさを実感し、健康問題がどのように国を超えて広がっていくのかを学ぶ良い機会となった。

おわりに

インターンの準備期間からすべての業務を終えるまで沢山の方々から助言、ご指導を賜り、大変お世話になりました。その方々を通じて、国際保健の現状と方向性、そして日本が果たす役割について学ぶことが出来ました。今回のインターンを実現させるためにお世話になった、(公社)日本 WHO 協会の皆様に厚く御礼申し上げます。